

口腔カンジダ症(カンジダ口内炎)をご存じですか？

むし歯や歯周病の他にも口の中には、気がつくとも痛みをともなう「できもの」ができてことがあります。ひとくりに「口内炎」と呼ばれていますが、何らかの原因により粘膜に刺激が生じ上皮に炎症が起こり、ただれた状態です。特にできやすいのは頬や唇の内側などの柔らかい部位に発症します。

その中でも要介護高齢者、がん患者にみられる「カンジダ症(カンジダ性口内炎)」について説明します。

カンジダ症とは

カンジダ症は、カビの一種であるカンジダ菌によって発症します。カンジダ菌自体は体の中に生息する数百種に及ぶ常在菌の一つであり、健康人にも検出(健康人の45%、入れ歯装着者は60%以上:USA Color Atlas of Clinical Oral Pathology)(参考文献:全国共通がん医科歯科連携講習会テキスト(第二版))され、通常は健康に影響を及ぼすことはありません。加齢や疾病治療として炎症を抑えたり、免疫の働きを弱めたりするために使用されるステロイド薬、がん化学療法、放射線療法などによって、常在菌のバランスが乱れると、カンジダ菌が増殖して発症します。また、口腔の自浄性の低下や不潔な入れ歯など、口腔内の不衛生で発症することもあります。症状としては、口の中に白いカッテージチーズ様の白斑、白い膜などが発生します。比較的容易にぬぐい取ることができますが、ヒリヒリ感や痛みを感じる方もいます。そのため食事が摂取できなくなったりする場合もあります。その他、紅斑様のもの、舌苔内の微生物が壊死し組織などの色素から黒色のものもあります。



全身的な原因

まず、内服や注射用抗菌薬による菌交代現象です。口腔内常在菌の多くは抗菌薬に感受性を示しますが、入院加療をうけているような方の中には長期間の抗菌薬やステロイドの投与により感受性が減少し、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)や緑膿菌のような耐性菌が占めることがあります。カンジダ菌は抗菌薬に感受性がないため、菌交代現象として口腔カンジダ症を生じることがあります。

また、全身的な感染防御機能が低下した場合、さまざまな菌による日和見感染症を生じることがありますが、カンジダ菌は最も高頻度に検出されるものの一つです。

要介護高齢者では個人差があるものの一般的に感染防御機能が低下していると考えられ、がん、糖尿病、腎不全などの基礎疾患を合併しやすく、注意が必要です。

また、がん患者、がん化学療法後の好中球減少時に伴い発症することが多くあります。

局所的な原因

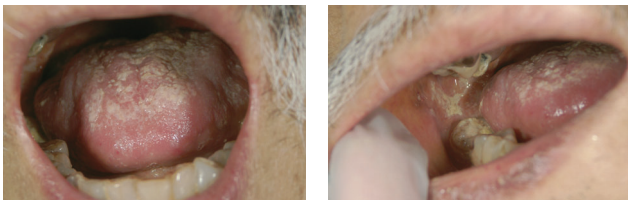
口腔乾燥、口腔の不潔、入れ歯の使用、局所ステロイド薬(気管支喘息に対する吸入、口内炎に対する軟膏)の副作用などがあり、これらは密に関連性を持っています。

唾液分泌量の減少と口腔からの水分の蒸発によって口腔乾燥

は起こります。唾液分泌量低下は、放射線療法など唾液腺に障害がおき機能が不可逆的に低下する場合と、唾液分泌の機能があっても唾液の生産性が低下する場合があります。生産性が低下するものには、手術や治療に伴う「絶食」、輸液量の制限(心不全予防、浮腫予防)による「脱水」、医療用麻薬、抗うつ薬、利尿剤、睡眠薬などの「薬剤の副作用」などが考えられます。

水分の蒸発は、経口気管チューブ、酸素マスクの使用や、口呼吸、発熱によって助長されます。

口腔が不潔になるのには、セルフケア能力の低下の影響が大きいです。がん化学療法、放射線療法にて発生する口腔粘膜炎症による痛みのためケアが実施できない状況もあります。また、絶食は唾液の分泌量を減少させるだけでなく、食物と粘膜との摩擦が消失し、汚染された付着物や菌を嚥下してしまい、排除されることがなくなってしまいます。唾液による抗菌作用、自浄作用が著明に低下し、カンジダ菌が定着、増殖されます。



入れ歯は、床と呼ばれる歯肉色の部分はレジンというアクリル樹脂でできており、表面が多孔性で吸水性があります。そのため、カンジダ菌が付着しやすく、清掃を怠ると入れ歯そのものが菌のすみかになってしまいます。

その他、気管支喘息に対する吸入薬や口内炎に対する軟膏などにはステロイドが含まれ、その副作用としてカンジダ菌が増殖します。

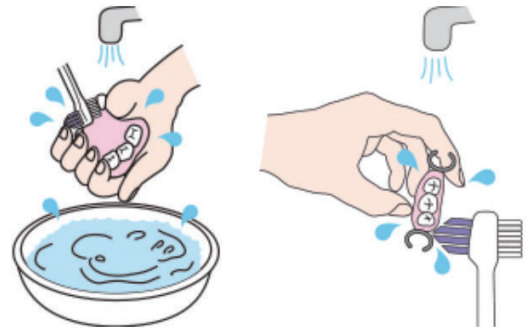
口腔カンジダ症の予防と対処法

歯磨きや含嗽(うがい)、白苔除去など口腔ケアをし、清浄化した状態を、保湿によって維持することが大切です。経口摂取や口

腔ケアによる刺激で唾液の分泌を促進させ、粘膜からの蒸発を予防するため保湿ジェルの使用やマスクの着用も有用です。

経口摂取が制限されている場合こそ、口腔の自浄作用が低下していると考え、口腔ケアを徹底する必要があります。唾液の分泌を促進し、口腔の自浄作用を高め、口腔機能の廃用予防にもつながります。

入れ歯の適切な清掃は重要です。流水下で、「義歯ブラシ」などでブラッシングし義歯洗浄剤を正しく使用しましょう。



義歯清掃方法

出典：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所「歯と口の健康研究室」

また、ステロイド軟膏の漫然とした長期使用は避けましょう。全身状態を把握したうえで、感染防御機能の低下が著明な場合や白苔が厚く広範囲な場合は、医療機関にて抗真菌薬の検討・処方が必要となります。

カンジダ症は、要介護高齢者、がん患者に多く見られます。要介護高齢者、がん患者は感染防御機能の低下状況の上、経口摂取の制限、唾液分泌の減少に伴う口腔乾燥、清浄化の低下、ステロイドの使用など口腔カンジダ症が発生する要因が多くあります。口腔内の苦痛を軽減し、支持療法の観点からも口腔ケアを中心に清浄化、保湿と入れ歯の管理が重要となります。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 病院委員会)